

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3591600212		
法人名	医療法人社団 早川内科医院		
事業所名	グループホームそらり		
所在地	山口県山陽小野田市大字西高泊1334番地1		
自己評価作成日	平成28年3月17日	評価結果市町受理日	平成28年9月12日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度ホームページで閲覧してください。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 やまぐち介護サービス評価調査ネットワーク
所在地	山口県山口市吉敷下東3丁目1番1号 山口県総合保健会館内
訪問調査日	平成28年4月13日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

開設して2年経ち少しずつステップアップを図っています。今年度は手作り昼食を取り組み職員が考えた献立で調理し、利用者様がお手伝いできることを取り入れています。夏にはベランダから見える花火大会の花火をご家族様と一緒に見る機会を設け、ベランダにソファや椅子を運んでゆっくり観て頂きました。秋にはオータムフェスタを開催し、地域やご家族様に事業所の様子を見学して頂くとともに歌声喫茶を催して利用者様や外来者に楽しんでいただきました。感染症の流行する時期には手洗いや外来の方の消毒・マスク着用を徹底して衛生に気をつけ流感やノロウィルスに感染することなく冬を越せました。利用者様もそらりでの生活に安心されておられ一昨年は年越しをご家族で迎えられた方も昨年末は「ここが一番いい」と言われ全員がグループホームでの年越しを致しました。安心して過ごしていただけてることが職員一同何よりの励みになっております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

前回の外部評価結果を受けられて、運営推進会議のメンバーの拡大や全職員での自己評価への取り組み、モニタリング記録の工夫など、できるところから改善に取り組まれています。併設の事業所と合同でオータムフェスタを新たに開設しておられ、事業所では独自に「歌声喫茶」を担当され、利用者はウエイトレスとしてカレーやうどんを地域の参加者に振る舞い、交流しておられます。食事は法人からの配食だけでなく、月に一回、昼食づくりの機会を設けられ、利用者は献立から買物、下ごしらえ、調理、後片付けなどできることを職員と一緒にしておられます。事業所独自の生活支援アセスメントシートを活用され、利用者ひとり一人の希望や願い、暮らしの意向を把握され、個別の支援ができるように努めておられます。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
57	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:24. 25. 26)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	64	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:10. 11. 20)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
58	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:19. 39)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	65	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2. 21)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
59	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:39)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:5)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
60	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:38. 39)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員は、生き活きと働けている (参考項目:12. 13)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:50)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:31. 32)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
63	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:29)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I.理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	各ユニットで全員で考えた実践目標を考え取り組んでいる。 理念は広報誌に記載し職員一人一人の名札に常に携帯し職員がそろったら毎日唱和している。	法人の理念を事業所の理念とし、事業所内に掲示している他、職員の名札の裏に記載し、朝の申し送り時に唱和している。各ユニットで年度毎に作成している実践目標を事業所内に掲示し、理念の実践につなげている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	昨年11月にオータムフェスタと名付けた開放デイを開催した。 また地域の小学校の学習発表会や運動会に参加した。	自治会に加入し、回覧版の情報や運営推進会議に参加している地域メンバーから地域での行事を把握して活用し、小学校の学習発表会や運動会の見学をしている。併設法人施設合同のオータムフェスタ開催時には、事業所では歌声喫茶(カレーやうどんの販売)を担当し、利用者もウエイтрレスとして参加し、地域からの来訪者と交流している。法人併設施設にボランティア(踊り、大正琴、チンドン屋)が来訪した時には参加して見学している。	・社会資源の活用	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議において認知症についての説明を冊子や事例に基づいて説明した。今後は認知症カフェ等も考えている。			
4	(3)	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	ミーティングにて施設長、管理者を含めた職員全員で検討を行い職員の言葉や実践してきた内容を記入してすべての項目において全員で見返しを行った。業務で参加できなかった職員においても見返しの際意見があれば付箋を貼るなどで意見を求めた。	管理者が評価の意義を説明し、ミーティング時を利用して職員全員で話し合い、計画作成担当者がまとめている。前回の外部評価結果を受けて目標達成計画を立て、運営推進会議の地域メンバー拡大や職員全員での自己評価への取り組み、モニタリング記録の工夫など、評価を活かしてできるところから改善に取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	昨年に引き続き欠かさず行っている。また参加メンバーに薬剤師3名、保育園園長、ケアマネを加え次年度はは所用で参加できなかった自治会長も参加する予定である。	会議は、自治会長、地域包括支援センター職員、薬剤師、保育園園長を新たにメンバーに加えて年6回、看護小規模多機能型居宅介護事業所と合同で実施している。利用者の概要、活動状況報告と行事予定、事例報告、職員の活動報告、外部評価への取り組み状況報告の後、報告内容について話し合いをしている。	・会議内容の工夫
6	(5)	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	管理者が市の担当と会って連携を取っている。また法令についての考え方など情報をメールなどでやり取りし、保険者と事業所の情報交換を密にしている。	市担当者とは運営推進会議時や電話、直接出向くなどして、情報交換や相談をし、助言を得るなど、協力関係を築くように取り組んでいる。地域包括支援センター職員とは、運営推進会議参加時や電話、直接出向いて情報交換や相談を行い連携を図っている。	
7	(6)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	西ユニットは入口の施錠は職員3名がいる時間は施錠を行わない。帰宅願望が強い方がおられる東ユニットはレクを行う15時～16時の間に施錠しない時間を設け身体拘束を行わないケアの実践に取り組んでいる。また、施設内研修も行っている。	マニュアルを基に、内部研修を行い、職員は身体拘束の内容や弊害について理解している。外出したい利用者があれば、早目に察知して気分転換をはかるなど、抑制や拘束のないケアに努めている。玄関の施錠については、利用者の動向を把握し、日中の開錠に努めている。スピーチロックについては管理者や計画作成担当者が指導している。	
8		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	資料を用いた研修をミーティング時に行ったり、毎週の朝礼でも他施設で起きた事件に触れ自施設で虐待が起きないように注意喚起を行いノートに記し職員全員が閲覧を行っている。		
9		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	ミーティング時に日常生活支援事業や成年後見制度について研修を行っている。また運営推進会議において成年後見制度を使われている利用者様の後見人をお呼びし参加者に制度について話を聞く機会を設けた。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
10		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約や重要事項説明事項などの説明などは各資料に基づいてわかりやすい言葉で説明している。また改正時は全家族に内容を連絡している。フロア内に誰でも閲覧できるようファイリングをして置いている。		
11	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等からの相談、苦情の受付体制や処理手続きを定め周知するとともに、意見や要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会の時やカンファレンスなどで意見や要望を伺っている。また手紙送付時や来設時に職員が意見を聞き取るようにしている。手紙は日々の生活が分かるように写真を添付した手紙を担当職員が個別に書いている。	相談、苦情の受付体制や外部機関、第三者委員を明示し、処理手続きを定めて、契約時に家族に説明をしている。面会時や運営推進会議参加時、行事参加時に直接聞く他、電話や2カ月毎に配布する便りなどで聞いている。意見や要望は個別ケア記録や苦情処理簿に記録して職員間で共有し、即対応するように取り組んでいる。居室の清掃管理や利用者の整容についての要望を運営に反映している。	
12	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	施設長、管理者はミーティングには毎回出席をし職員の意見や外部研修の報告を聞いている。それに対して意見や感想を述べている。	月1回のミーティング時や毎朝の申し送り時に職員の意見や提案を聞く機会を設けている。個人面接時に直接聞いている他、管理者や計画作成担当者は、職員と昼食を一緒に食べるなどして、日頃から意見を言いやすい環境をつくっている。モニタリング記録の改善や、配置異動についての意見を運営に反映している。	
13		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は給料明細を職員一人一人に手渡しし、意見や提案を毎回聞き取ったりコミュニケーションをとるようにしている。また職員の疑問には即座に対応してもらっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14	(9)	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	ミーティングの時間を利用して研修を行っている。外部研修にも全員の職員が行けるように配慮を行い行った内容を報告する機会を設けている。新任研修は計画を立て日々評価するように努めている。	外部研修は、職員に情報を伝え、希望や段階に応じて勤務の一環として受講の機会を提供している。受講後は研修報告書を提出し、月1回のミーティング時に伝達し、その後、回覧して全員が共有している。法人研修は年2回あり、認知症についてや救急救命法について受講している。内部研修は年間計画を立てて施設長や管理者他外部講師を招いて、毎月実施(身体拘束、認知症、アセスメント、倫理、言葉づかい、年間目標、外部評価)している。認知症サポーター養成講座を実施し、職員全員が受講している。新人は法人研修(1ヶ月から1ヶ月半)の後、管理者や先輩職員が指導者となって、日々の業務の中で介護の知識や技術を学ぶように取り組んでいる。職員はレク係りや環境、記録、広報、行事等の係りを担当し、働きながら学べるように取り組んでいる。	
15		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	代表者は地域ケア会議やグループホーム協議会、介護支援専門員連絡協議会へ積極的に参加させてサービスの質の向上させていく取り組みをしている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
16		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に利用者様やご家族と面談し不安感から付随して起きる行動、本人からのシグナルが分かるよう聞き取っている。またご本人様からもじっくりお話を伺って向き合える努力を行っている。		
17		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ケアカンファレンスや契約の際などにご家族様と話が出来る機会を設けて関係づくりに努めている。		
18		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	グループホーム入居を前提とせず地域の社会資源を活用できる方法を助言している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者様と昔の思い出話や活躍していた頃の話聞く機会を設け今までの生活の中で培われた料理・生活習慣・習わしなどの知恵を生活の中に取り入れている。		
20		○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	生活の様子を毎月手紙にしてご家族にお伝えしたり電話で報告をしている。来年度からは誕生月にご家族様をお呼びし昼食を一緒にとっていただき共に誕生日を祝うことも考えている。		
21	(10)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族や知人の面会時には職員も会話の中に入り会話が成り立つようにしている。なじみの美容院や外食、外泊への支援を行い、なじみの人や場所との関係が途切れないように努めている。	家族(子、孫、ひ孫)や兄弟、親戚の人の来訪がある他、手紙や電話での交流を支援している。受診時には、馴染みの公園や神社を回る他、家族の協力を得て馴染みの美容院の利用の支援をしている他、カラオケボックスで歌を歌ったり、帰宅や馴染みの商店での買物など馴染みの人や場所との関係が途切れ無いうよう支援に努めている。	
22		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	家庭的な雰囲気ですてやかに過ごせる様心がけている。利用者間でトラブルが生じた場合は職員が間に入り場面転換を図りテーブルの配置もその都度検討しお1人お1人が穏やかに過ごせる様配慮している。		
23		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	必要に応じて本人様・ご家族の希望を聞き日頃から相談しやすい雰囲気作りをしている。入所前のケアマネを運営推進会議に呼び今の状態を知る機会を設けている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
24	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者様の行いたいことを会話や言葉から察知し本人の生活リズムを崩さないように手伝いをさせていただいたり買い物や散歩に出かけている。意思疎通が難しい人も何がしたいのかいろいろ試す試みをしている。	入居時のアセスメントシートの活用や事業所独自の生活支援アセスメントシートを活用して利用者のできること、好むこと、困難なことを把握している他、日々のケアの中での言葉や会話時の様子、嬉しそうな表情等を介護記録に記録して思いや意向の把握に努めている。把握が困難な場合は職員で話し合い、本人本位に検討している。	
25		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族や関わっていたサービス担当者からの情報収集を行っている。ご家族が来られた時には近況を報告し、今までの生活の様子を聞いて利用者様のイメージがわくよう努力をしている。		
26		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日健康チェックを行い、また個人のケース記録や利用者様の送り後、日勤者がカンファレンスを行い利用者様の過ごし方を検討している。		
27	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	各利用者様には担当があり、本人・家族から細かな生活歴などを聞き取る努力をしている。入居前の日常生活をイメージしながら職員全体で介護計画を作成している。介護記録にプランに沿ったことを書き入れることでモニタリングをしやすくしており、毎月担当者がモニタリングを行い新たな課題発生が無いのか、その人らしい生活が送れているかを評価を行う。	計画作成担当者と利用者を担当している職員が中心となってカンファレンスを開催し、本人や家族の思い、主治医、看護師の意見を参考にして介護計画を作成している。利用者を担当している職員が工夫した記録用紙を使って毎月1回モニタリングを行い、6カ月毎に見直しをしている。状態に変化があればその都度見直し、現状に即した介護計画を作成している。	
28		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日勤帯でかかわる職員が利用者様の様子で気付いたことや変化があった際に記入できる紙を用意しておき書き込むようにしている。日勤帯は黒色・プランに沿ったことは青色・夜勤帯は赤色で色分けをして記入し、見やすくしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご家族が気軽に面会できるよう配慮しゆっくりできる空間を作っている。外出したい・部屋でゆっくり時間を持たいたいなどご本人やご家族の希望に応じて柔軟な対応をしている。		
30		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	買い物は近くのスーパーや薬局を利用し利用者様も一緒に行くことがある。利用者様もあそこで化粧品を買いたいと言われるなど新たな地でのお店に満足されておられる。希望があればできるだけ叶えられるよう配慮している。		
31	(13)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医とは月2回の訪問診療と緊急時の対応が出来るよう連携を取り合っている。他科受診の際にはご家族の希望があれば付き添い受診を行いご家族には結果をお知らせしている。	本人や家族の納得を得て協力医療機関をかかりつけ医としている。協力医療機関は月2回の訪問診療と、夜間、緊急時等の対応をしている。歯科は必要に応じて往診による支援をし、その他の受診は家族の協力を得て受診の支援をしている。毎日の健康管理記録は往診時や状態に変化がある時は医師へFAXや法人看護師に相談するなどして、適切な医療が受けられるように支援している。結果は家族に電話や毎月の手紙、面会時等で報告して共有している。	
32		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	血圧の変動、発熱などの変化があるときや排便コントロールがスムーズでない時などは日勤リーダーから看護師や主治医に報告し指示を受け対応している。医師から指示が出たことに対しては連絡帳に記入して皆が分かるようにしている。		
33		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には書面にて情報提供を行い情報共有に務めている。またお見舞いを兼ねた様子観察を行っており、病状の変化、経過について入院先の看護師やご家族から情報を得て記録に残すようにしている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
34	(14)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	お身体の状態の変化が見られた時にはご家族と相談をして意向を確認し早期にケアプランを作成して説明をしている。さらに重度化していく場合には終末期に向けた承諾書を作成し、再度の意向を確認しながら方針を決めていく準備を行う。介護職・看護職間の情報共有に務めるようにしている。	契約時に事業所でできる対応について家族に説明をしている。実際に重度化した場合は早い段階から本人や家族の意向を聞いて主治医と相談し、全職員で話し合い、方針を決めて共有し、支援に取り組むこととしている。	
35	(15)	○事故防止の取り組みや事故発生時の備え 転倒、誤薬、行方不明等を防ぐため、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組むとともに、急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身につけている。	ひやりとしたことをインシデントリポートとして作成し対策を職員全員で検討しまとめたものをミーティングで報告し利用者様の事故防止に努めている。また全体ミーティングにおいて救急講習を受けており、またマニュアルを作成し、緊急時の対応を行えるようにしている。	事故防止対応マニュアルを作成している。事例が生じた場合はインシデントリポートに発生要因や結果、対応、再発予防策を記録して回覧し、各職員が感じたことや考えたことを記録し、ミーティングで予防策について話し合い、ひとり一人の事故防止に努めている。法人や内部研修で救急救命法の研修を受けているが、全職員が応急手当や初期対応の実践力を身につけるまでには至っていない。	・職員全員による応急手当や初期対応の定期的訓練の実施
36	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害マニュアルを作成し、火災報知機の使用方法を始め日頃から災害に対する意識を持ち利用者様の安全を第一としている。夜勤開始時には夜勤者でマニュアル確認を毎日行っている。避難訓練は年に2回行っており、運営推進会議においても災害時の協力をお願いしている。	災害発生時対応マニュアルを基に法人の防火管理者を中心に年2回、昼夜の火災を想定した避難訓練、通報訓練を利用者も参加して併設施設と合同で実施している。事業所では毎日、夜勤者がマニュアルを読み上げて確認している。運営推進会議時には訓練への参加の呼びかけを行っている他、地域との連絡網の作成に向けて取り組んでいる。備蓄もしている。地域との協力体制を築くまでには至っていない。	・地域との協力体制の構築
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
37	(17)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	スタッフは出勤するとまず利用者様の目線に腰を落とし一人一人に挨拶を行って言葉かけをしている。入浴時・排泄時・お部屋で過ごされる場合のプライバシーは損ねないように利用者様の耳元で小声で行うようにしている。	職員は内部研修で学び、人格の尊重やプライバシーの確保について理解し、利用者を人生の先輩として、尊敬の念を持って接し、誇りやプライバシーを傷つけない言葉かけや対応をしている。言葉づかいが命令調にならないようにと管理者は日々のケアの中で指導している。個人記録の保管や取り扱いに留意し、守秘義務は徹底している。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
38		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入浴時や起床時の衣類を選んでいただいたり、フロアで過ごしたいのかお部屋で休みたいのかお尋ねするようにしている。それぞれのペースを尊重し急がせたり出来ない決めつけたりせず無理強いの無いかかわりを心掛けている。		
39		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者様のペースや希望に応じたレクを用意するようにしている。入浴やレクへの拒みがあつた時には無理強いせず、気持ちが落ち着かなかつた時には個別に外気浴するなどの支援をしている。		
40		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	朝の更衣時や入浴の際にご自分で洋服を選ぶ方には選んでいただき化粧水をつけて差し上げたりしている。日々、利用者様の希望をお聞きしながら身だしなみを整えている。		
41	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	月に一回手作り昼食を行い、利用者様が出る事は手伝っていただくようにしている。また、無理なくお食事が召し上がれるように一人一人に合わせた食事形態でお出しし食事を美味しく摂っていただくよう配慮している。配膳車運びやテーブル拭き、必要に応じておにぎりを握ってもらうなどその方に応じたお手伝いもしていただいている。	三食とも法人の配食を利用している。利用者が食べやすいように、形態を工夫したり、食品交換をして、温食、冷食など利用者の好みに合わせて提供している。月に一度の昼食づくり(あんかけうどん、卵焼き、おにぎりなど)をしたり、献立から買物、調理など、利用者と一緒にしている。利用者は野菜の下ごしらえ、切る、混ぜる、むすびを握る、お盆やテーブルを拭く、下膳、食器を洗う、トレイを拭く、食事のあいさつの号令など、できることを職員と一緒にしている。おやつづくり(チョコカップ、やわらかクッキー、ぜんざい)や季節行事食(おせち、節句、おはぎ、七夕、ハローウィン、クリスマス)など、食事が楽しみなものになるように工夫して取り組んでいる。	
42		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人一人の食事摂取量を把握し記録。食事形態を一人一人合わせている。水分補給に努め摂取量が少ない方は一日の摂取量を量る様にしている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、個々の状態に合わせた口腔ケアを行っている。義歯は夕食後入れ歯洗浄剤に浸けて清潔に心掛けている。歯ブラシ・コップは定期的に消毒し、保管している。口腔内を常に観察し、トラブルが発生した場合は訪問歯科診療を利用し専門家と連携を取っている。		
44	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	ご利用者様ごとの排泄リズムを把握できるようにチェック表を利用している。その他、仕草や行動を見逃さないよう気を配りトイレ誘導を行っている。また温罨法や腹部マッサージも行っており自然排便を促している。	バイタルサインチェック表に排泄状況を記録して排泄パターンを把握し、利用者ひとり一人に合った言葉かけや誘導をして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	
45		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	チェック表を用いて個別のパターンを把握し、朝に白湯を飲んでいただき腹部マッサージを行っている、水分補給を促し実施している。		
46	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	入浴の希望を聞いてタイミングを見て順番を考えている。利用者様に応じた好みの湯温や順番も考慮に入れて満足して入っていたり配慮している。	入浴は10時から11時30分までの間可能で、週2回から3回は入浴できるように支援している。利用者の好みの湯加減や好みの入浴剤、シャンプーなどを使ってゆっくり入浴型の支援するように支援している。入浴したくない利用者には無理強いしないで、待ったり、言葉かけの工夫をしてしている。利用者の状態に合わせて、清拭や足浴、部分浴、シャワー浴など、個々に応じた入浴の支援をしている。	
47		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜間の状況を見てベッドやソファで休んでいただく。ご利用者様の希望、生活習慣、体調などに応じて対応している。日中、外気浴を行ったりして気分転換を行い安眠できるよう配慮している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者様ごとに一目で服薬の種類等がわかるように処方箋綴りを用意して職員の誰もが見られる様にしている。また途中で薬の変更があった場合にはその都度薬の種類と説明を送りノートに書き記し職員に周知できるようにしている。		
49	(21)	○活躍できる場面づくり、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	手作り昼食を昨年から行っており出来る事のお手伝いが増やせるように工夫をしている。その他洗濯物たたみや洗濯物干しなど日常のお手伝いも職員と一緒にお願いしていただいたことへ感謝の言葉を伝えている。	テレビ(相撲、時代劇)視聴やDVD(音楽)の鑑賞、本や雑誌を読む、絵本を見る、歌を歌う、ぬり絵、編物、書初め、紙での壁画づくり、クリスマスリースづくり、年賀状づくり、お茶会、花火見物、散歩、買物、早口言葉、ラジオ体操、リズム体操、風船バレー、掃除(掃く、拭く)、シーツ交換、洗濯物干し、洗濯物たたみ、チューリップの植え付け、プランター花の水やり、配膳車運搬、食事作りなど活躍できる場面をつくり、楽しみ事や気分転換の支援をしている。	
50	(22)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	季節に合わせ花見ドライブを楽しんでいたり、ベランダから見られる花火見物はご家族と一緒にソファに座って楽しんでいただけている。毎週のようにご家族と出かけられる利用者様もおられカラオケや外食を楽しまれている。	周辺の散歩や外気浴、季節の花見(桜、つつじ)、初詣、ドライブ(江汐公園)に出かける他、家族の協力を得て、馴染みの美容院の利用やカラオケに出かけている。	・外出支援の工夫
51		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	1対1で出かける機会があるときには支払いをしていただくこともある。		
52		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族と電話でお話したり、スタッフが手紙の内容を一緒に考えてご家族に送り返事のお手紙が届いた時は大変喜ばれる。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
53	(23)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室はご家族が思い思いに小物や写真を飾られたり共用スペースのフロアの壁には月ごとの行事の作り物を飾り季節感を出すように工夫している。 台所やトイレなどの環境整備には気を付けて日々気持ちよく過ごしていただけるよう清潔に配慮している。	リビングは広く明るく、室内には自由に配置換えのできるテーブルがあり、テレビの前にはゆっくりとくつろげるようにソファが置いてある。壁面には季節を感じることができるように利用者が作成した季節の飾り物を展示している。窓の外には広いベランダがあり、外気浴やプランターの手入れ、夏には花火大会を楽しむことができるなど、利用者が好きなところで自由に過ごせるように工夫している。音や温度、換気に配慮し、清潔、整頓された共用空間は居心地よく過ごせるように工夫している。。	
54		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファの向きを変えたり個別に対応できるテーブルを用意しその時の気分に合わせて過ごしていただけるようにしている。職員も声の大きさを場面で工夫するようにしている。		
55	(24)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かし、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者様に合ったベッドの位置を工夫している。ベッドの生活が合わない方もいらっしゃるので個別に対応している。なじみのタンスや椅子などを使用し安心して過ごしていただける様にしている。ご家族の写真が飾ってある居室も多い。	居室の表札には季節の花をあしらひ、室内には整理ダンス、テーブル、椅子、化粧品、衣類など使い慣れた物や好みの物を持ち込み、装飾小物や家族写真を飾って本人が居心地よく過ごせるように工夫している。	
56		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレ、浴室に手すりがあるので職員が介助しながらその方の力を維持できるよう努めている。浴槽から立ち上がりが難しい方など困難事例が生じた時には職員全員が考え浴槽に椅子を置くなどして立ち上がりを助け個浴が継続できるよう支援している。		

2. 目 標 達 成 計 画

事業所名 グループホームそらり

作成日：平成 28 年 9 月 8 日

【目標達成計画】					
優先 順位	項目 番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に 要する期間
1	50	利用者様の外出する機会が少ない	戸外に出る機会を増やす	気候の良い時期には1週間のうちに1回は戸外散歩できるように取り組む。また、職員の業務の流れを見直し、利用者様と1対1でドライブや散歩ができる体制にしていく。例年の地域の小学校の運動会や、学習発表会にも参加していく。	次回外部 評価まで
2	2	地域の行事に参加できるメンバーが限られている。	利用者様・職員が地域の人たちと交流をする。	今年度から地域のサロンを同敷地内で行う事になった。サロンの開催日には数人ずつ参加させていただき、地域の人たちと交流していく。地域の人たちに顔を覚えていただく。	次回外部 評価まで
3	5 36	前年度は推進会議の内容として、グループホームに関するものが少なかった。 前年度までは事業所内の連絡網のみであった為、有事の時に周りに助けを呼ぶ手段が無い。	運営推進会議を活用して地域の協力体制を構築する。	運営推進会議において、今年度よりグループホームへの意見や、事例紹介など盛り込んだ内容にしていく。 災害対策として、自治会の連絡網に加えてもらった。また、事業所内の連絡網にも、自治会長、民生委員、薬局にも関わってもらうことが出来た。実際に運営推進会議を利用して地域の人も加わった避難訓練(予定はH29.2)を行っていく。	次回外部 評価まで
4	35	職員全員が応急手当や初期対応の実践力を身につけるまでには至っていない。	職員全員が緊急時の初期対応ができるようになる	今年度よりAEDを導入した。その際に業者にAEDの取り扱い方を含めた救急法を学んだ。全体ミーティングにおいて職員全員が実技を加えた救急法に取り組んだ。今後も周知徹底する為に、毎月のミーティングを利用し、定期的な訓練を行っていく予定である。	次回外部 評価まで
5					

注1)項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2)項目数が足りない場合は、行を追加すること。